

平成24年4月15日  
今週のベストショット



雁レクB レッドサンデーズ 対 塩浜ジャガーズ

逆転へのキーポイント！ホームを死守するジャガーズ堀内雅二捕手（ランナーレッド三船選手）。

写真：雁ノ巣ライナーズ 三宅基裕

雁レクB

レッドサンデーズ（1勝1敗）3 1 0 0 0 0 4 土師、土田●—三船

塩浜ジャガーズ（1勝1敗）2 0 1 1 3 X 7 内田○—堀内

HR：土田（レッド） 2BH：折居、三船、土田（レッド）岩崎（塩浜ジ）

一回表、レッドは4番嶋村選手の中犠飛、6番土師選手の左前タイムリーなどで幸先良く3点を先取するが、その裏ジャガーズも2番稲富選手から竹尾選手、堀内選手、稗田選手、内田選手まで五連打で2点を返すなど、粘りを見せた。二回表レッドは土田選手が左越え本塁打で突き放しにかかるが、ジャガーズは三回裏、代打角選手の内野ゴロの間に1点を返し、さらに四回裏、堀内選手の左前タイムリーでついに同点とした。五回裏、ジャガーズはこの回から登板したレッド土田投手から2つの四球と内野安打で無死満塁とすると、二連続押し出し死球と暴投による3点を加え、試合を決めた。逃げるレッドと粘るジャガーズといった試合展開であったが、最後はジャガーズが点をもった形になった。レッド側からすると勝負と育成のバランスの難しさが結果に表れた試合となった。また、記録には残らないが、ジャガーズの荒木遊撃手が随所で見せた華麗な守備はみごとであった。ゴールデングラブ賞があれば候補として挙げたい。

（記事、写真：雁ノ巣ライナーズ 三宅基裕）



三回以降立ち直ったジャガーズ内田耕司投手。



レッド先発の土師猛投手。



初回、レッド土師投手自ら左前適時打を放つ。



二回表レッド土田選手がHRで突き放しにかかる。



四回表レッドの追加点を死守して勝利を呼び込むジャガーズ堀内雅二捕手。



四回裏同点の口火となるジャガーズ1番岩崎光洋選手の二塁打。

## 奈多グラウンド

三友クラブ (0勝3敗) 0 1 0 0 2 0 3 足達●一駄原  
三苦ホーネッツ (3勝0敗) 0 0 4 0 1 0 5 井手○、矢野一松尾

2BH: 八尋 (三友ク)

三友クラブは初回表先頭坂本選手がレフトの前にポトリと落ちるヒットを放つと手堅い送りバントと4番松尾選手のセンター前で一三塁まで進めるものの、後続が打ち取られ先制を逃す。その裏、ホーネッツも矢野選手が出塁するが、三友足達投手が続く2番から三連続三振にとる。先制したのは三友クラブ。二回表、6番福井選手がライト前で出塁すると8番八尋選手の右中間へのタイムリー二塁打で1点を先制する。三回裏ホーネッツは8番池間選手がショート失策で出塁すると四死球や盗塁、犠牲フライなどで1安打で4点を挙げ逆転に成功する。その後、三友クラブは五回に2点を返し1点差に迫るも、追加点を挙げたホーネッツが5-3で逃げ切った。(記事: 奈多フェニックス 今林文彦、写真: 西藤圭介)



苦手の三友クラブに勝利! ホーネッツ井手崇運投手。



真剣なまなざしで次の塁を狙う。





そつのない攻撃で三友クラブを逆転した  
ホーネット打線。

### 青松園 A

ブルーマーリンズ (0勝2敗) 0 0 0 0 2 2

ソルトベイスターズ (1勝1敗) 2 7 1 2 X 1 2

HR: 鶴野 (ソルト) 2 BH: 中村健 (ソルト)

塚●、友重ー尾田

鶴野○ー酒井

ソルトベイスターズは序盤からブルーマーリンズ投手の乱れから一方的な展開。二回裏、鶴野選手の7点目となるホームランでだめ押し。ブルーマーリンズは、五回表に相手エラーからのタイムリーで2点を返すも、ソルト塚投手のコーナーをつく速球に敗れた。(記事、写真:奈多クラブ 落石官照)



一回裏ソルト中村健一選手が押し出しで先制。



二回裏ソルト鶴野巧選手がHRを放つ。



ブルーマーリンズ2番末松選手のレフト前ヒット。

## 青松園B

三苦フレンズ (0勝2敗) 000000 0 二宮、塔本●ー溝ノ上

新町パイレーツ (1勝1敗) 000010× 1 吉田○ー桐島

HR、3BH、2BH : なし

一回表フレンズ1番田中選手が四球で出塁し、2番場先選手の送りバントで二進すると、4番寺山選手の高いバウンドのショートゴロ内野安打の間に本塁突入を試みるも、パイレーツの堅守に阻まれタッチアウト、先制点を逃す。一回裏フレンズ先発二宮投手は、パイレーツ1番牟田選手を打ち取った所で、早くもエース塔本投手にスイッチ。するとパイレーツ2番升井選手が塔本投手の出鼻をくじくショート内野安打で出塁し、3番白岩選手の四球、PB(パスボール)で一死二三塁の絶好のチャンスをつかむ。しかし4、5番が打ち取られ、こちらも先制のチャンス逃す。その後互いに塁には出るものの決め手を欠き、五回表を終わって0-0の投手戦。試合が動いたのは五回裏、パイレーツ2番升井選手が四球で出塁し盗塁で二進すると、一死後4番桐島選手も四球、続く5番吉田選手の三遊間寄りショートゴロが痛恨のFC(フィルダースチョイス)で満塁に。ここでフレンズ内野陣は前進守備をとる。すると6番八坂選手の打ち上げたセカンドとファースト後方でちょうど交錯する打球は、インフィールドフライでバッターアウトとなったものの、セカンドエラーが出てひよんな形で待望の先制点がパイレーツに舞い込む。その裏何とか塁に出たいフレンズ5番溝ノ上選手の打球は、途中からセカンドに入った安部選手が横っ飛びでキャッチ。このプレーで反撃の糸口を絶たれたフレンズは後続を打ち取られ、非常に見応えのある熱戦は六回裏攻撃中に時間切れのため1-0の最小スコアでパイレーツが勝利した。試合後に好ゲームを演じた両チームの爽やかな笑顔が印象的だった。

(記事、写真：奈多サンデーズ 八島久徳)



パイレーツの堅守の秘密は、試合前に外野でシートノックを行うことにある。



挨拶を済ませ、守備に散るパイレーツナインのやる気が伺える。



フレンズ打線を2安打完封のパイレーツ先発吉田崇浩投手。



一回表二死二塁からショート内野安打を放つフレンズ4番寺山栄一選手。





フレンズ田中盛幸選手とパイレーツ桐島涼捕手のクロスプレイは桐島捕手に軍配が上がる。



フレンズ先発の二宮投手は、老獪な下投げで一人を打ち取り、監督業に専念。



一回裏一死から引き継いだフレンズ塔本真投手。



五回裏0-0の均衡が破れた瞬間。



六回表横っ飛びでフレンズ反撃の芽を摘んだパイレーツ安部貴大二塁手（19歳）。



緊迫した試合から開放された両チームは互いの健闘を讃えあった。

### 第3週編集後記

WSLの皆さん、コンニチハ！

今週から雁レクは駐車場が有料になりましたね。

4月15日は4試合が行われました。

雁レクBのレッド対ジャガーズ戦は、開幕戦で逆転勝ちして勢いに乗るレッドが先制し、試合を優位に進めていました。同点に追いつかれての五回裏、前回逆転勝利の立役者土田選手がマウンドに上がりましたが、コントロールに苦しみ1安打4四死球で3点を与えてしまい7-4で逆転負け。まだまだ修行ですね。

奈多グラウンドの今シーズン早くも3試合目同士の対決となった三友クラブ対ホーネッツ戦は、三友クラブが安打数、奪三振数で上回りながら、四球と足を絡めたホーネッツ一気の攻めに5-3で屈しました。三友クラブ足達投手は初回と六回に三者連続三振を取って、順調に奪三振数を重ねていますね。あとは勝ち星が・・・。

青松園AのBマーリンズ対Sベイスターズ戦は、12四球のBマーリンズ投手陣の崩壊に乗じて、12-2の大量点差でソルトが勝ちました。ソルトは昨年なかなか1勝が遠かったですが、今年は2試合目で達成。今年は是非調子に乗って行って欲しい。

青松園Bのフレンズ対パイレーツは、見ていた我々も引き込まれる見事な投手戦でした。どちらも初回の先制機を逃して、中盤はフレンズペースで進みましたが、パイレーツが好守備でギリギリ凌ぐ形でした。3安打をマークしたパイレーツ2番升井選手を相手ミスで迎え入れたパイレーツは最後までその守備力でフレンズ打線を封じ込み1-0で勝ちました。試合前のシートノックが存分に発揮されましたね。試合前にシートノックを行なっているのは、パイレーツだけではないでしょうか？うちも取り入れてみようと。

さて、各チームスタートダッシュはいかがでしょうか？

新戦力、新体制、新ユニフォーム、新オーダーと言っているのも4月いっぱいまでです。

中学生大会、GWのお休み前後から実力派チーム同士の対戦が見られます。新しいものを上手く吸収し力に変えて勝ち残って行くチームに栄冠は輝きます。早くも明暗が分かれそうな5月に向けて、各チーム戦力を整えて下さい。

4月22日は中学生大会のため全チームお休みです。未来の和白リーガーの応援に行ってください。そこから巣立つ選手が後の甲子園やプロ野球やメジャーを賑わせるかもしれませんね。そして和白リーグにも入ってもらいたいものです。

4月29日は、4試合です。

	一塁側		三塁側		審判
青松園A	雁ノ巣ライナーズ	VS	三苦三球会		三友クラブ
青松園B	奈多サンデーズ	VS	ブルーマーリンズ		レッドサンデーズ
奈多グラ	ソルトベイスターズ	VS	奈多クラブ		塩浜ジャガーズ
雁レク6	新町パイレーツ	VS	奈多フェニックス		三苦ホーネッツ（支払い）

編集委員さんはナイスな写真と記事を期限通りをお願いします。